

昨年十二月、中国武漢市より発生した新型コロナウイルスは韓国、日本を始め瞬く間に全世界に拡大しています。WHO(世界保健機関)は三月十二日新型コロナウイルスの世界的大流行(パンデミック)と断定しました。国内では感染拡大防止のために、政府は小中高と特別支援学校の一斉休校、イベントの自粛等の要請をお願いし、世界各国でも、出入国禁止、非常事態宣言、国境の封鎖、都市封鎖、個人外出制限等各国の実情に合わせて拡大防止に懸命に取り組んでいます。グローバル化社会では、人、モノ、金、情報及び感染症も一気に拡散し、いま市民生活面から経済面、人々の心理面にまで甚大かつ深刻な影響を及ぼしているところ

です。つるかわ学園でも保護者会の中止、利用者の外出制限、法人では通常理事会開催の中止による書面議決の実施等影響が多大に出ています。福祉施設関係では冬季にはインフルエンザ、ノロウイルスの感染予防に日頃以上に気を

理事長 早川 明

社会福祉法人つるかわ学園
つるかわ学園を支える会
☎195-0051
東京都町田市真光寺町
186番地
T E L (042) 735-2220
F A X (042) 736-6374
HP:tsurukawa-gakuen.com

三月十六日、津久井やまゆり園事件の被告人植松聖に求刑通り死刑判決がくだされました。自身重い身体障害者である木村英子参議院議員は「被告を

罰しただけでは社会は変わらない。第二、三の被告を生まないためには、子供のころから障害者とそうでない人が分離でなく、地域で暮らせる環境をつくる必要がある」(朝日新聞)と述べています。「ごく普通の家庭で育った人」が残忍で凄惨な事件を繰り返さないように、私たちは何をすべきなのか。木村英子氏の提案も色々考えられる具体策のなかの一つではないかと思

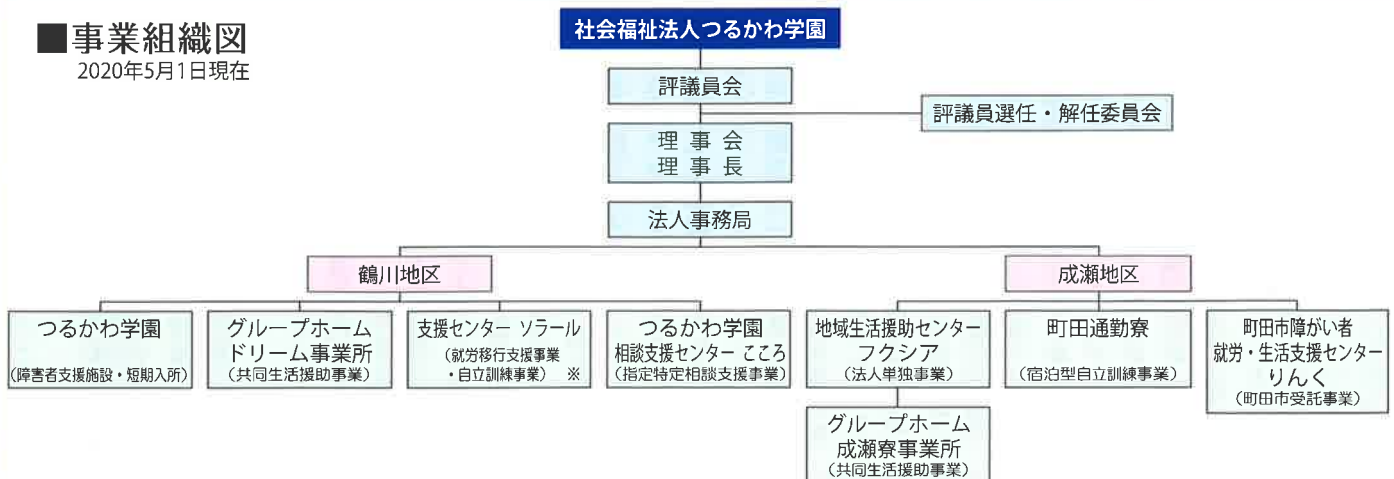
います。東京五輪、パラリンピックの一年延期決定、首都圏一円「移動自粛の共同要請」に応じつつ、日々の感染者数の増減に一喜一憂している方もいるのではないのでしょうか。「広報つるかわ」が皆様のお手元に届く頃には、法に基づく「緊急事態宣言」の発動に至っているかもしれません。感染の勢いが収まっていくればと願うのみです。感染症という目に見えない敵に向かい、私たちのすべきことは、正しい知識と最新の情報を得て、惑わされることなく冷静に対処していくことだと思います。人類の歴史は繰り返して現れる感染症との戦いと共存の連続ですから。

梅原猛は「日本人の道徳水準はまだそれほど低くないが、道徳性の全く欠如した人間の跳梁する恐るべき時代が遠くから到来するに違いない、理由なく人を殺す人や活職や詐欺など恥ずべき犯罪を行う者が出る」と二十年以上前に警鐘を鳴らしていました。日本では昭和三十三年より学校で道徳教育が行われ、かれこれ半世紀を経過してきていますが、人として生きる最低限の「他人を傷付けない、嘘をつかない、盗まない」という道徳心の育成教育は、子供たちの心底に広く深く根付かず、戦後日本社会の精神的支柱にまで育たなかったのではないのでしょうか。その結果として、目を覆いたくなるような惨劇が思わぬところから噴出し出しているのではないかと思います。

道徳教育では愛国心を育てるのが目的ではなく、人として生きる最低限のルールである「他人を傷付けない、嘘をつかない、盗まない」を第一に子供たちに教え込み、家庭や社会でその積み重ねを丁寧に行っていくことが大きな予防策になるのではないのでしょうか。

（令和二年三月三十一日）

事業組織図
2020年5月1日現在



※「つるかわ学園職業準備支援センター」は、2020年5月1日より「支援センター ソラール」に名称変更いたしました。

【つるかわ学園】

施設長 月岡 亮



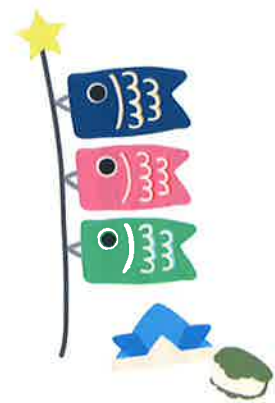
穏やかに新しい年度を迎えました。十年ほど前、東京都の「障害者自立支援基盤整備事業」による補助金を受け、施設利用者の加齢に伴う衰えや、障害の変化、重度化に対応できるよう設備面を改善しました。当時の建物設備を有効活用した改修・改築工事として具体的には、車いす対応を含む重度化に対応したトイレや浴槽、洗い場の改修、感染症対策等の静養室、個別対応・緊急時対応用の居室の増室等、生活基盤として最も大切な部分を全面的に改修し現在に至っております。

そして今年、つるかわ学園を利用される方々の平均年齢が四十九歳を迎えます。都内入所施設としては比較的若い施設かもしれませんが、身体的・体力的な衰えや、障害の変化は、十年前とは違つさらなる重度高齢化に直面しております。

私たちは、限られた環境の中でも今現在のベスト、今後を見据えてのベストを尽くせるようまた、施設を利用されている方々の「心豊かに安心した生活」を大切に考えていきたいです。そこには、それぞれの居場所があり、それぞれを理解し、大切にしてくれる人たちがいる、そして自分らしく生きていくための生活環

境を整えることが重要です。

課題は多くありますが、一つ一つに向き合っていきます。



【町田通勤寮】

寮長 三階 広明

「新型「コロナ」の対応で世の中が騒然としています。暦は雨々と進み、少し早い桜の季節と共に新年度が始まりました。皆さんはどうお過ごしでしょうか。通勤寮では、事業所さんの対応で当面仕事が休み（自宅待機）になった方もいらっしゃると思います。

千葉県では障害者施設関係者の集団感染が報道され、さらに気を引き締めて対応を誤らないように。と考えています。

二〇二〇オンラインピック・パラリンピックの一年程度の延期も発表されました。様々な思いがありますが、あるアスリートの発言にあった『今できる最善の準備をすることが私のやるべきことです。』という言葉が、改めて自分の課題として大切にしたいと考えています。

新年度のスタートにあたり二人の新しい支援スタッフが加わりました。内一人は本部施設（つるかわ学園）からの異動です。もう一人は年末に退職した職員の補充という形になります。新しい「力」を一つにしてより良い「支援」に努めてまいりますので、引き続きのご理解とご支援をお願いいたします。入れ替わりに一人の支援スタッフがグループホーム援助センターに転出いたしました。一番身近な事業所ですので、今後もさらなる連携の強化を図り、より充実した支援を目指してまいります。

例年よりは少ないのですが、特別支援学校を卒業したばかりの利用者さんが入寮してきました。それぞれの目標に向かって真摯に努力を積み重ねていってほしいと思います。

【共同生活援助事業、トリム】

管理者 外川 珠枝

新年度を迎えました。職員の異動もあり、新しい職員と共に生活援助を行っています。

ありがたいことに、つるかわ学園法人内、七つの事業所があり多職種が経験できるメリットがあります。希望を胸に異動してくる職員や、不安を抱きながら異動してくる職員、様々ですが、是非、この法人でグループホームを始め、沢山の事を学んでほしいと思います。

ドリム事業所は二つのユニットで定員一五名です。

一つは、つるかわ学園のすぐ側にある一般のアパートを借りて生活しています。一般の方のご理解と近隣の方のご理解があるからこそ、ここまでやってこれました。

つるかわ学園がすぐ側なので緊急時や災害時等、連携が取れる安心感があります。

もう一つは、野津田町にあります。天気の良い日は富士山の山頂部分が見えます。周りは竹林で鶴見川も流れており、川のほとりは愛犬やベビーカーを押しての散歩コース、身軽に走っているマラソンコースにもなっていて、休みの日は四季折々の草花、川の鯉や亀を鑑賞しながら散歩をします。

平均年齢五十、五歳で重度高齢化の変化による対応が求められています。食形態では柔らかく食や刻み食、住環境では、階段や風呂場の構造、履物では、靴底の減りからの体幹バランスの崩れによる転倒等、一つ一つ配慮と支援の工夫が必要です。課題は増えるばかりですが、本人を尊重しその人らしく、その人が地域で暮らしていくために、地域との関係を構築しながら、より楽しく、よりいい生活、より安全な生活、ここで暮らして良かったと思っていただくために、法人と連携していきたいと思えます。

【地域生活援助センターフクシア
・成瀬寮事業所】

管理者 大矢 浩之

令和二年度より法人事務局長との兼務となりますが、地域生活援助センターと成瀬寮事業所の管理者に就任いたしました。前任者のように経験豊富な者とは違い、まだまだ未熟ではありますが、皆様のご協力を賜りながら、職務に邁進してまいりますので、何卒宜しくお願い致します。

成瀬事業所は、本年度も、十五ユニットのグループホーム運営となります。利用者のほとんどが町田通勤寮からの卒業生となっておりますが、近年は皆さん単身での生活を希望される方が多く、新規ユニット開設に至っておりません。しかし、世間では若者を中心に、「費用負担軽減」、「一人暮らしの寂しさが半減する」などの理由で、シェアハウスが人気になっています。もちろん、メリットばかりではないのですが…。

グループホームは、サービス管理責任者、世話人、生活支援員があり、利用者の皆さんが日常生活される上で必要な支援を受けることができ、また、共同生活にもさまざまな魅力があることを理解していただき、多くの方の手助けができるようにアピールして参りたいと思います。

【町田市障がい者就労
生活支援センター りんく】

管理者 藤本 英理子

「つるかわ学園職業準備支援センター」は、五月から「支援センターソラール」として新たなスタートを切りました。近年、障害者雇用率の上昇に伴い、訓練をしてスキルを身に付けて就労される方よりも、一日でも早く就労をしたいという方も多く、就労移行支援を利用するメリットを感じて頂き難くなったように思っていました。実際に当事業所の利用者の方の数も「一桁」ということも増えていきました。一方で、利用者の方の中には、急いで就労を目指す訓練をするよりも、じっくりと就労を目指す土台をつくる支援が必要な方のご相談が増加していました。

そこで、利用者の方の人数を確保すること、今までの就労移行支援事業所としてのノウハウを活かしながら、ニーズの増えている「じっくりと就労を目指す土台をつくる」を可能にするため、「就労移行支援」と「自立訓練」の二つの機能を持った「支援センター ソラール」を開始することとしました。「自立訓練」では、就労を目指したいとは思っているけれど、同じ場所に通い続けることが難しいという方にも、是非、利用し

て頂きたいと思っております。居場所作り、ご本人に合ったペースで就労を目指すことの出来る支援をさせていただきます。「就労移行支援」は今までと同じように、就労まで丁寧な支援を実施していきたいと思えます。「ソラール」はスペイン語で「太陽のエネルギー」を意味しますが、「支援センター ソラール」は、利用して下さる方の希望に向けてエネルギーを蓄え、進んでいくための場所になっていきたいと思っております。



【つるかわ学園相談支援センター】
新年度の相談支援事業の
取組みについて

管理者 芹澤 政人

平成二十四年四月、障害者自立支援法（平成二十五年四月より障害者総合支援法に改正）・児童福祉法の一部改正により、介護給付・訓練等給付・障害児通所支援を利用するすべての方に「サービス等利用計画」を作成することになりました。作成により、

障害者・障害児の自立した生活を支え、課題の解決や適切なサービスを利用するためのよりきめ細かい支援を受けることができます。

「サービス等利用計画」の等の意味は、相談支援専門員が作成する際に、位置付けるよう努めなければいけないことにあります。

① 利用者の日常生活全般を支援する観点に立つこと

② 障害福祉サービス、地域相談支援、それ以外の福祉サービスの利用

③ 地域の住民による自発的な活動によるサービス等の利用

相談支援専門員は、この位置づけを大切にプランニングする必要があります。何よりも、本人の希望、思いに応えるためには…の視点を中心に据えていく資質が求められると思います。

質の高い相談支援体制の構築には、相談支援事業所の運営基盤の安定や相談支援専門員の人材育成、確保は重要課題となります。今年度も継続して、相談支援体制の整備とともに地域の各関係機関との連携強化を行っていききたいと考えております。



氏名 伊住 光

Q1 出身地と出身校

・長崎県
・國學院大學

Q2 入職日

・平成三十一年八月一日

Q3 所属

・つるかわ学園東が丘二丁目

Q4 入職のきっかけ

・社会福祉士の実習でお世話になったのがご縁で入職しました。

Q5 働いての感想

・利用者の方の支援は日々試行錯誤の連続だと感じています。

Q6 今後の抱負

・福祉の資格を取得して業務に活かしていきたいと思っています。

Q7 リフレッシュ法

・近所のスーパー銭湯に行くこと。

Q8 趣味

・読書、ゲーム

Q9 私の一押し

・一押しはKPOPグループ:TWICE

氏名 山崎 裕太

Q1 出身地と出身校

・千葉県
・文教大学

職員インタビュー Vol.6

Q2 入職日

・平成二十九年十一月一日

Q3 所属

・つるかわ学園西が丘二丁目

Q4 入職のきっかけ

・大学で臨床心理学を専攻していて、そこで福祉の領域を学ぶ機会がありました。

Q5 働いての感想

・大変なこともありすが、職員の皆様と楽しく仕事をすることができています。

Q6 今後の抱負

・資格取得に挑戦して、知識をもっと身につけ、より良い支援に繋がってきたいと思っています。

Q7 リフレッシュ法

・TVゲーム、スポーツ観戦、自宅で「コロコロ」

Q8 趣味

・TVゲーム、スポーツ観戦

Q9 私の一押し

・ガトー横浜のチーズケーキ

つるかわ学園ホームページ
日常のようす、行事のお知らせ等がご覧になれます
アドレスはこちら!!
HP: tsurukawa-gakuen.com



活動の様子

オリエンテーション & バーベキュー

町田通勤寮



例年、年度初めの日曜日に設定している行事です。通勤寮で生活することの意味や目標を再確認する場として、利用者同士、利用者と職員の交流の場として開催しています。

今年は「新型コロナウイルス」の影響もあり、中止についても検討しましたが、対策をしっかりとらううえで開催することといたしました。

オリエンテーションでは、改めて「通勤寮とは」ということを考え、確認し、一人一人の利用者の「目標」を実現するために必要なことを「知る」、「学ぶ」ことを中心として、それぞれの職員から資料に基づき講義を行いました。

その後、バーベキューに移り、夕食を兼ねたお楽しみひのひと時となりました。

職員からは、「今年はバーベキューで、外に出て焼く利用者が少なかった」という感想がありました。昔流行った「私食べる人」では良いコミュニケーションは築けません。何か一つでも「他の人のために」という気持ちをもってほしいと考えます。



つるかわ学園を

支える会にご案内

「支える会」について

国家的財政困難と世情不安定の中にあつて、施設も苦しい状況に置かれています。私達は私達なりに苦しきの中にあつても福祉を支える者として努力を惜しまず頑張っています。今一步の力の支えをこうした形で求めるのは本当に心苦しいのですが、市民の皆様の小さな善意はやがて大きな力を生む礎となる事をお約束します。

どうか「つるかわ学園」を支える会にご入会し力を添えてくださいますようお願い申し上げます。

会費

「つるかわ学園を支える会」の会費は、一〇年額三千元ですが、ひとり何回か入っていたり、このことを歓迎、お願いしております。

会員の方々には、毎年三回発行するつるかわ学園の機関誌「つるかわ」をお送りし、学園の様子を続けてご報告するとともに、この人達の幸せを願う者同志としての親交を深めます。

入会方法

入会して下さる方は、振込用紙を学園にご請求下さい。

振替口座番号

〇〇一〇一七七一九四〇二九

加入者 社会福祉法人 つるかわ学園